

第8回日豪会議
(2013年3月1日：東京)

第8回日豪会議は、3月1日、東京（三田共用会議所）に於いて開催された。三村明夫日豪経済委員会会長及びロッド・エディントン豪日経済委員会会長が共同議長を務めた。

会議では、岸田文雄外務大臣による挨拶及びマールス外務政務次官によるスピーチが行われた。マールス外務政務次官は会議の議論にも参加した。また、逢沢一郎日豪友好議連事務局長、川口順子元外務大臣も会議に参加した。日豪両国の政治、ビジネス、シンクタンク、学界及びメディアを代表する有識者が出席した。

会議においては、より充実したパートナーシップを築くための人的交流の進展、経済再活性化及び経済改革、平和と安定のための協力、より緊密なパートナーシップに向けた道筋づくりが議論の焦点となった。

提案

出席者は、下記を含む具体的な提案を行った。

(戦略的パートナーシップ：21世紀の協力)

- 日本と豪州は、ハイレベルの相互訪問をより頻度を実施すべき。特に、日本の総理大臣の二国間の文脈での豪州訪問は10年以上実現していないことから、安倍総理による早期の豪州訪問を強く奨励。
- 政府、ビジネス、教育関係者は、第6回日豪会議に提出された「日本語作業部会」の豪州における日本語教育の強化についての提案を、財源の問題をも含めて、フォローアップすべき。
- 研究・調査の日豪両国での優先付け、並びに、日本と豪州を研究する研究機関同士の提携について、政府が再度強調すべき。
- ビジネス界は、より広いアジア地域における合同事業の支援を含め、相手国の言語を話す人材をより多く雇用することにより、範を示すべき。
- 職業資格の相互承認、並びに、より緊密な人と人とのつながりを築いていくべく、日豪両国で教育機関に対する規制をより柔軟なものとする 것을追求すべき。
- 文化交流においては、伝統芸術のみならず、食事やファッションといった日常生活の側面を含むポピュラー・カルチャーにも焦点を当てるべき。
- 出席者は、議会間交流を支える民間部門の非営利団体の設立を提案。

(イノベーション、経済の再活性化・改革)

- 日本と豪州は、両国間の親密かつ一段高い経済関係の基礎となる、経済連携協定（E P A）／自由貿易協定（F T A）を可能な限り早期に締結し、自由な貿易及び投資、地域及び国際社会の経済活性化を主導すべき。
- 両国が強みを持つクリーンエネルギーやヘルス・ケア分野の規制緩和は、日本の「成長戦略」において優先分野となることが期待されることから、日豪両国のこれら分野における協力に高い優先順位をつけるべき。
- 豪州と日本は、地域ワイドのインフラ融資支援ニーズを支えるべく、より強固なアジアの金融市場づくりに努めるべき。
- 日豪両国の農家の相互訪問は、共通の課題についての理解、並びに、経済的統合により生まれるお互いの利益についての認識を高める上で貴重な経験となることから、両国で更に奨励されるべき。
- 政府と産業界は、投資を奨励する方法を含め、科学・イノベーションに関する国内政策のあり方について、日豪間で議論すべき。

(アジア太平洋及び世界の平和と安定のための協力)

- 日本と豪州は、安全保障・防衛分野の二国間協力関係強化に向けて更に努力し、地域及び国際社会の平和と安定に貢献すべき。
- 両国政府は、既存の協力に加えて、サイバー・セキュリティ及び防衛科学技術分野での協力を拡大すべき。
- 豪州と日本は海上における行動規範の発展と普及のために協同すべき。
- 両国政府は防衛幹部学校間の交流の大幅な拡大を検討すべき。
- 豪州ビジネス界からの参加者は、日本においては既に非公式に行われているように、豪州政府は地域の安全保障と戦略的進展についてより頻繁にブリーフするべきことを示唆。

セッション1－戦略的パートナーシップ：21世紀の協力

両国の出席者は、より緊密な戦略的パートナーシップに向けた原動力となり、かつ、道筋を示している「アジアの世紀における豪州」白書の重要性を認識。出席者は、政府、ビジネス、コミュニティ・グループがこれらの提案を実施することが重要であることに同意。

両国関係の性格をより明確に定義づけていくことは、更に協力を進化・拡大させていく上で、また、二国間関係についてのお互いの認識と理解を深めていく上で、強固な基盤を提供することにつながると感じた出席者もあり。

出席者は、日豪のパートナーシップは、両国間で行われている協力のみではなく、民主主義、自由貿易、国際の平和と安定、人権について共にコミットしていることも含むべきと述べた。

日豪の二国間関係は実質的かつ友好的であると見なされているとしつつも、参加者は、日豪双方とも、相手国の経済と文化についての未だ理解が不十分であると述べた。日豪双方は、言語能力及びより幅広い分野での理解力が極めて重要であること強調した。行政上の制約が協力関係構築を妨げていることを指摘。

セッション2－イノベーション・経済再活性化・経済改革

出席者は、安倍政権誕生を受けて日本経済の将来について新たなる確信が生まれたことに留意しつつ、日本経済再活性化に向けた安倍政権の強い決意を歓迎した。

しかしながら、より踏み込んだ経済改革と規制緩和が日本経済の長期的な繁栄のために本質的に重要であるとの認識が広く共有された。両国経済においてサービス部門が占める割合が大きいことから、両国のサービス部門の規制緩和はとりわけ重要。

出席者は、日豪EPA／FTAは二国間の貿易関係のみならず二国間関係全般にとり重要であると考えた。日豪EPA／FTAは、日豪二国間関係について国民の関心に再度焦点をあてる契機となる。

日本側出席者は、日本のTPP参加を豪州が支持するように要請。豪州側出席者は、日本がTPPに参画し、豪州が求めているような野心的な構造改革と規制緩和にコミットすることは日本にとって利益となるとして、これに合意すると表明した。

出席者は、豪州は、石炭と天然ガス（LNG）の豊かで信頼の置ける供給国でありつづけることに留意。石炭とLNGの輸出は2011年の東日本大震災後に急激に増加したことは、余り広く認識されていないが、世界的なLNG市場の展開にかかわらず今後とも継続することが予想される。

セッション3－アジア太平洋地域及び世界の平和と安定のための協力

両国の参加者は2011年秋に開催された前回会議時と比べて、北朝鮮による挑発、テロリズムの脅威の継続、中国台頭の諸側面から派生する緊張の結果、地域の安全保障状況の見通しについてより悲観的であった。アジアにおける戦略的競争は海洋の領域においてますます顕著となっており、日本と豪州は地域の海上における紛争から対称的ではない影響を受けることになろう。

豪州と日本は共に、中国との相互依存関係の進展と、価値観及び利益についての相違とのバランスを取る課題に直面している。しかし、両国は、中国との意見相違を平和的に取り扱うことに多大な利益を有している。

両国の出席者は、地域及び世界の安全保障にとり、確信を持ち、かつ、関与する米国が、アジア太平洋地域に完全に関与すること、また、地域の同盟国及びパートナー自身が効果的に相互協力するとともに、共有された認識を米国に伝えることの重要性につき言及した。

出席者は、定期的な日豪外務・防衛閣僚協議（「2+2」）の開催、物品サービス相互提供協定（ACSA）の発効、日豪情報保護協定の署名を含む、日豪間の安全保障・防衛協力が進展していることを歓迎。

それと同時に、出席者は、日豪の安保関係は、地域における今後の課題により試されるかもしれないことに懸念を表明した。日豪安保協力はアドホックでありより明確な定義が必要と感じる参加者がいた一方、日本側の制約を乗り越えた実際的な関与が主要な挑戦であると感じる参加者もいた。

同様に、両国の参加者は、カンボジア和平プロセスや APEC 創設、東アジアサミット（EAS）の拡大や核軍縮・不拡散に見られるように、地域及び世界の諸課題に対して創造的な外交的解決を見つけるために、日本と豪州が協働する機会を追求することが重要であると考えた。

セッション4 – より強固なパートナーシップ：より緊密なパートナーシップへの道筋

結論として、出席者は、二国間関係を次のレベルに引き上げていく上で、日豪関係（二国間の文脈はより広い分野を含む）の目標や性格について共通のビジョン及びより明確な定義は有意義であることに合意した。

そのようなビジョンは、日豪の利益・関心が重なり合う全ての課題、特に海上の安全、自由かつ安定した市場、ルールに基づく国際秩序、並びに、民主的自由や人権といった、日豪両国が共有する価値観を包摂すべきである。

国際的にみると、米国、中国及び ASEAN 諸国の関係の性質が日豪両国共通の利益であると思われた。豪州と日本が、米・中・ASEAN 諸国それぞれに対してより緊密に協力していくことが必要。

経済的側面が、他の側面を底支えする二国間関係の基盤であると認識された。EPA/FTA交渉が相互にとり受け入れ可能な条件で早期に妥結されることは、今後のより深くかつ根本的な統合の可能性を提供するTPPやRCEPへの参加とならんで、主要かつ喫緊の目標である

日豪両国における継続的な経済改革と規制緩和、特に安倍政権の経済再活性化施策及び力強い成長戦略は、アジアの世紀がもたらす機会を両国が最大限に生かしていく上で必要。

最後に、あらゆるレベルでの協力を拡大する提案を検討するにあたり、出席者は、提案を財政的に支える政府の能力について現実的であるべきであり、ビジネス界等がこれらを支えていく方法を見いだしていく上で創造的であるべきであることで意見の一致を見た。